

教育厚生委員会 県内調査活動状況

1 日時 平成20年5月29日(木)

2 出席委員 (8名)

委員長 棚本 邦由

副委員長 河西 敏郎

委員 清水 武則

安本 美紀

大沢 軍治

岡 伸

鷹野 一雄

武川 勉

欠席 土屋 直

地元議員 中村 正則

3 調査先及び調査内容

(1) 【笛吹市御坂児童センター】

調査内容(主な質疑)

問)このセンターには時代の先端を行く太陽光発電装置がNEDOから補助を得て設置されているが、どのような経緯で申請したのか。経費の節約はどれくらいか。

答)建設計画を検討委員会で協議する中で、環境に出来るだけやさしいということコンセプトにした。構造も木造にし、クリーンエネルギーの活用をということになった。NEDOの試験研究の補助金制度に申請したところ、補助対象となった。

電力発生量としては、10kwくらいで、昼間の建物全体分という訳ではなく、冷暖房は難しいが、かなりの部分はカバー出来ていると思う。経費がどれくらい節約できたかは、まだ運営開始後まもなく、データがない。

問)平日は110人の子供の利用があって、5人の大人で指導しているとのことだが、この5人は委託先の指導員ということか。

答)放課後児童クラブの指導員は、市で採用した職員であり、児童センターと子育て支援センターの運営は子育て支援団体に業務委託している。

問)子育て支援センターの利用者と年間の委託料は。

答)子育て支援センターは小さな子のいる親子を対象に午前中に開催される。委託料は約600万円弱となっている。

問)このセンターの位置付けは。

答)今まで、石和地区、春日居地区、八代地区、境川地区、一宮地区に児童センターがそれぞれ1ヶ所ずつあり、この御坂児童センターは市内では6番目の児童センターである。子育て支援センターでは、今まで、旧一宮町役場に1ヶ所設置していたが、今回この児童センターを建設するにあたり、子育て支援センターも取り入れようということで、市内2ヶ所目として設置した。

問)この児童センターは御坂地域だけではなく、周りの地域も含めてのセンターという位置付けではないかと思うがどうか。

答) 検討する中で、御坂東小と西小の間でもあり、また御坂のエリアを中心にとのことでこの場所になった。小学区に1つあるのが理想だが、財政的にも厳しいので、例えば石和地区では空き教室を利用して学童保育をしている。将来的には財政状況等を勘案しながら効率的な整備をしていきたい。



笛吹市御坂保健センターで説明・質疑の後、施設を見学した。

(2) 【大月市立猿橋小学校】

調査内容(主な質疑)

問) 土地取得面積と取得費用は。

答) 取得した面積は3,656㎡だが、そのうち県道部分となっている分もあるので、実際に増えた面積としては3,000㎡くらい。用地取得費用は、土地代や物件補償費等で約4億5,900万円程かかっている。

問) 地域と連携して行っている授業等があれば教えて欲しい。

答) あじさい祭にお琴クラブが参加している。昨年は猿橋のたもとで行われた観月会に、音楽クラブが参加して歌を歌った。また、子供歌舞伎への応援・協力もしている。9,10月には地域の敬老会でお琴クラブの演奏の依頼がある。自治会でお年寄りが学校訪問をし、子供たちと一緒に給食を食べるといった交流もある。また地域であいさつ声かけをお願いする回覧を回してもらったりもしている。

問) この学校は傾斜地に建っていて、3つの棟がスロープで繋がれており、廊下も長いですが、子供たちが走ったりしないような、安全面で苦勞をされているような例はあるか。

答) 特に苦勞や困るということはない。台車等でスロープを下ってくる生徒もエレベーターをいたずらする生徒もいない。

問) 特別支援コーディネーターの県全体の概要について教えてもらいたい。

答) 特別支援コーディネーターは、普通学級にいる学習障害児をサポートする校内の連絡体制の役割となっている。原則全ての学校にいるということになっている。

問) 先日、今年の3月で廃校となった浅利小学校を見に行った。非常に良い施設でもったいないと思ったが、今後の活用策は決まっているのか。

答) 具体的な活用策は今のところ白紙の状態である。市内の文化団体から是非使わせてもらいたいという要請もあるが、教育委員会としてはまず地域の意向をくみ上げたいと考えている。他の学校についても、学校全体の配置が済んでから、具体的な利用方針を考えていく予定である。

問) 先程の説明のなかで、15校の小学校を5校に、中学校を5校から2校にという配置見直しの話があったが、目標年度は耐震化の目標年度である27年度ということになるのか。

答) 適正化実施計画を19年度に作成し、当初は20年度から24年度の間で計画していたが、再検討課題も出てきたため、現在見直しをしている。見直し後の最終年度は耐震化のリミットとされる27年度として、現在内容を詰めている。

問) この学校は中核的な位置付けということだが、実際につかえる普通教室はどれくらいあるのか。

答) 現在はフリースペースも含めて、1学年2教室使用しているが、子供が増えた場合には、最大で4教室使えるような設計になっている。

問) 再配置で子供が増えた場合は、遠方の地区からも通ってくることになると思うが、通学についてはどのように考えているのか。

答) 現在大月市では、平成19年度から路線バスを通学用バスとして利用するシステムを活用している。大月市は沢が多いため、多くのバスを必要とすることから、適正化計画の見直しの材料の1つとなっている。今後バスシステムをどのように運営していくかを、委託先の富士急行とも協議をしているところである。

問) 現在体育館とプールを中学校と兼用で使っていると聞いたが、小学生には中学生のプールは深すぎたりして危険ではないか。

答) 体育館は古いが、今も小学校のものを使っている。プールは、校舎を建設する際に取り壊してしまったため、新しく出来た中学校のプールをバスで送迎して使っている。プールの床は電動で昇降するため、小学生が入る午前の時間帯については、深さを浅くして使用しているので、深さに関しては危険面はない。

問) 地域との観月の会というのは、地域と共に学校があるということで、素晴らしいと思った。今後も同様の計画があるか。

答) お琴クラブを作った間もない頃、伝統文化を育む会の代表の方が来校して、協力してもらえないかという要請があった。学校としてそのような活動を行うのは時間や授業の関係から、難しい部分もあるかと思うので、当面、現在のような協力するという形で進めていくのがいいかと思っている。



多目的ホールで説明・質疑の後、小学校内を見学した。